

南禅寺から哲学の道、吉田山へ

(第 65 回くらわん会 2001/11/06)

集合場所の疎水公園には、当時の北垣国道京都府知事に見そめられ、琵琶湖疎水建設（1885～90）の技術指導をした、若き田邊朔郎博士の銅像がある。

疎水分線を通り南禅寺の水路閣をくぐる頃には秋の日射しに色づき始めた木々の葉が光っていた。紅葉で有名な永観堂も、まだ楓の葉はグラデーションがかかり始めたところだった。

哲学の道では行き交う人も増え、異国の人々の散策姿も多かった。所々に茶店や、京土産店があり、ふらりと立ち寄りたいた気持ちにさせる。

法然院近くから日射しが強くなり、名物の桜の葉が真っ赤に紅葉して艶やかに光っていた。疎水には小魚が泳ぎ、鴨が一羽、優雅に追いかける姿が見られた。

銀閣寺下で休憩し今日登る予定だった大文字山の火床を見上げる。ようやく青空が広がるが雲の動きも激しい。ここで一応、一次解散し出町柳に向かうグループと分かれたが5～6名が帰っただけで、そのまま吉田山に向かう。

吉田神社の北参道から別名“神楽岡”と呼ばれ、古くから霊域として崇められ、東山三十六峰の一つにも数えられる吉田山（121m）に登る。山頂広場で大文字山を眺めながら昼食を始めるが、あわや本降りかと思わせる雨に見舞われ傘を差しての食事になった。

昼食を早めに切り上げて、紅葉で有名な真如堂（真正極楽寺）の境内を抜けたが、紅葉には今少

インクライン（傾斜鉄道）を使って舟を南禅寺の平地に下ろし船溜まりから鴨川までを鴨東運河で結んだ

集合場所の疎水公園には、琵琶湖疎水建設の技術指導をした、若き田邊朔郎博士の銅像がある

疎水分線の入り口から南禅寺の裏に向かう

南禅寺水路閣は疎水分線を通すのに西洋風赤煉瓦のアーチ橋を作ったもので周囲の景観とよく合っている
疎水分線沿いに南禅寺に向かう道は静かで木立に包まれている





う 南禅寺境内を右に見て永観堂に向か

しだった。

京都三大墓地の一つ黒谷墓地には会津藩士達の墓所があり、自らの信念を貫いて死んでいった武士達の魂が眠っている。中心にある文殊塔からは京都市内がよく展望できる。

降りきったところに金戒光明寺（浄土宗鎮西派黒谷本山）があり、御影堂の横には見事な松（鎧掛の松）が植わっていた。平安神宮の前を抜け鴨東運河に沿って京阪三条に向かう。疎水事務所の辺りから叡山と大文字（如意ヶ岳）が水面に鮮やかに写っていた。

今日は不安定な空模様だったが、深まり行く秋を、十分に味わうことの出来た一日となった。

富田朝己記



ころだつた 紅葉で有名な永観堂も、まだ楓の葉はグラデーショナルがかかり始めた

臨済宗南禅寺派総本山の三門、歌舞伎で石川五右衛門が「絶景かな！」と叫ぶところ



哲学者の西田幾多郎らが思索にふけりながら歩いた「思索の小径」と呼ばれていたのが、いつしか「哲学の道」と呼ばれるようになった

法然院近くから日射しが強くなり、名物の桜の葉が真っ赤に紅葉して艶やかに光っていた



哲学の道では行き交う人も増え、異国の人々の散策姿も多かった。所々に茶店や、京土産店があり、ふらりと立ち寄りたいたい気持ちにさせる



北参道から別名神楽岡と呼ばれ、古くから霊域として崇められ、東山三十六峰の一つの吉田山に登る銀閣寺下で休憩し今日登る予定だった大文字山の火床を見上げる



昼食を早めに切り上げて、宗忠神社を抜けて紅葉で有名な真如堂（真正極楽寺）に向かう山頂広場で大文字山を眺めながら昼食、あわや本降りかと思わせる雨に見舞われ傘を差しての食事になった



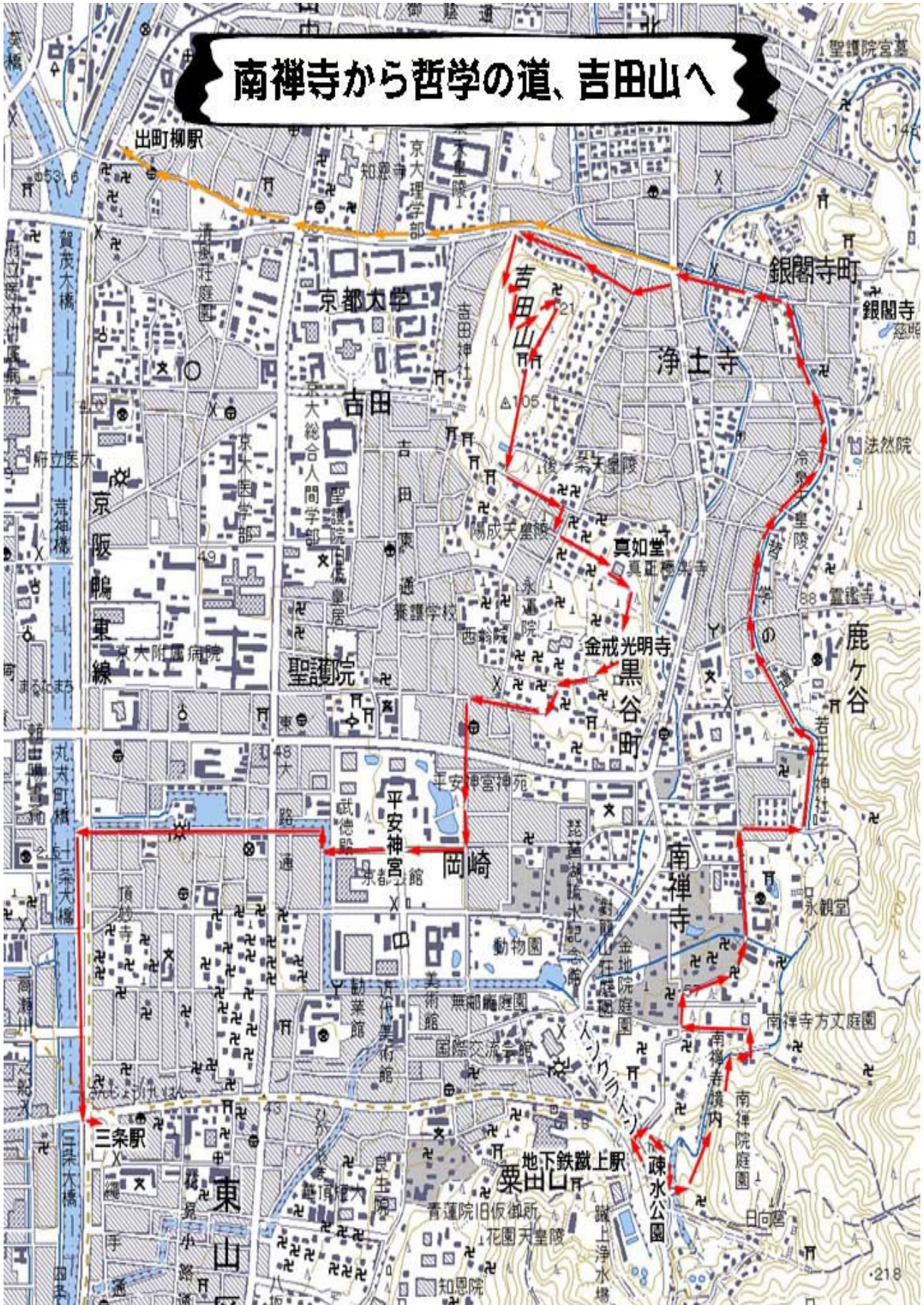
金戒光明寺（浄土宗鎮西派黒谷本山）の御影堂の横には見事な松（鎧掛けの松）が植わっていた黒谷墓地には会津藩士達の墓所があり、自らの信念を貫いて死んでいった武士達の魂が眠っている



広疎水事務所の辺りから叡山と大文字（如意ヶ岳）が水面に鮮やかに写っていた降りきったところに金戒光明寺（浄土宗鎮西派黒谷本山）があり、黒門を抜けて平安神宮に向かう



南禅寺から哲学の道、吉田山へ



<行程>

京都地下鉄蹴上駅⇒インクライン⇒南禅寺⇒永観堂⇒哲学の道⇒銀閣寺（一次解散）⇒吉田山⇒真如堂⇒金戒光明寺⇒平安神宮⇒京阪三条駅 8km 2001年11月6日 106名参加（当初予定では、日向神社→大文字山→浪切不動尊→銀閣寺、前日雨天変更）